

会長退任のご挨拶



若い世代の活躍に期待

沖縄県設備設計事務所協会

前会長 平良 保

本誌広報委員長から、9月発刊予定の『建築設備』第3号に、退任のご挨拶をお願いしたいとの電話があり、後日、依頼の文書が届きました。ご厚意に感謝し、本誌を通して改めて、お世話になった方々へ、御礼と感謝の言葉を申し述べさせていただきます。

去る5月に新会長へ業務を引継ぎ、関係者への退任のご報告(挨拶状)も済ませたところでありますが、在任中は皆様方のご支援によって大過なく責任を全うし、協会のために少しでも貢献できたことを感謝しております。お陰様で本協会も確実に発展への道を歩んでおり、若い会員達によって今後更に力強くその歩を進めて行くものと期待しています。

退任を機に、これからは本業の設計の仕事にもっと打ち込めるかと思っておりましたが、継続の『(社)日本設備設計事務所協会』理事や、電気技術者試験・講習、その他、公の仕事で相変わらず忙しい日々を追われております。

会長就任の要請を受けた時、これからは若い世代が力を合わせ、エネルギッシュな活動を展開して行くべきとの理由から固く辞退したものの、諸般の事情で引き受けざるを得なくなり、平成8年から二期4年、会長を努めることになりました。ご存知のように設備設計業界には懸案の課題が幾つかあって、その取扱いと解決に全力を挙げて取り組んでまいりました。まだ道半ばではありますが、これからも一層努力を重ね、目標に向かって邁進していきます。技術の研鑽、関係機関や団体との強調、社会への奉仕など、設備の機能を通して社会に貢献し、信頼される業界人としてその責任を果たしていきたいと思っております。

協会運営に当たって心掛けたことは、会員が安心して業務の遂行が出来、事務所の繁栄と共に、協会の発展にもつながる活動の推進でありました。発注機関への分離発注の陳情、過当競争によるダンピングの自粛など、適正価格の重要性の認識と、明るく健全な職場環境を目指して努力してきました。また業務上のパートナーである建築設計業界はじめ関係団体とは、各種事業を共催、賛助するなどして相互の関係を密にし、設備に対する理解と信頼を醸成してきました。

設備設計の分野がいまだに一般社会に余り知られていない状況を踏まえ、今日の情報化時代等も合わせ考えて機関誌の発刊を計画平成10年から『建築設備』を発刊して、関係者に設備に関する情報の交換と、技術研鑽の場を提供いたしました。それによって設備が建設産業の中により明確に認識され、広く一般の関心の高まりによって、更にその質が向上発展することを願っております。

ご存じのように設備技術者の資格法制化の問題が、話題の貿易自由化による国際間の資格相互認証の動きとも絡んで今政府機関で論議され、その行方が注目されております。

先進各国の実状に倣い、近い将来、この問題は必ず私達が望む形に進展し、解決が実施するものと信じております。そのような情勢も踏まえつつ、21世紀の設備設計業務が若者達の憧れの職業として確立され、協会の発展と共に飛躍していくことを祈りつつ、皆様方への感謝の気持ちも含めて私の退任のご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

(株)沖縄設備設計代表取締役会長)



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会